

驗的に示われておるにすぎない。本法に於ては当該林分の成長率を知り、成長率に適當とする繰返しの年数を乘じて、即ち仮りに30年生のスギ林分の成長率を6%、繰返しの年数を5年とすれば、30%の伐採率を得るといふ如くなるのである。

本法は未完成のものであるが、本法に関心を有られる各位の御助力を得て完璧の域に達せしめたいものと念願するものである。

第二表 樹型版(Baumklasse)区分一覽表

I. 優勢林冠層		[ 従来の幹級区分との対照 ]	[ 処理の概略 ]
Kronenklasse	A. 満冠樹		
	1. 中蘗木(中正木)	1	なるべく伐らぬ。
	2. 過強木	2a	配置関係にて伏る場合もあり 伏らぬ場合もある。
3. 過弱木	2b		
Stammklasse	B. 欠冠樹		
	1. 中蘗木	2c	全上
	2. 過強木	2a	
3. 過弱木	2b	なるべく伐る	
	C. 畸形木	2d	強度なものは全部伐り軽度なものは場合により伏り又は残す。
	D. 枝翳木	2e	
II. 劣勢林冠層			
	E. 選育木	3	配置関係にて伏り又は残す。
	F. 被圧木	4	林地保護上活用できるものは伐らぬ
	G. 瀕死木以下	5	利用可能なものは伐る。

## しいたけ栽培について

佐伯宮林署(白井担当区) 小中島 深田千代

しいたけ栽培については既に権威者の方々より幾多の研究が発表されて居りますが、私は之を分けまじて、(1)しいたけ原木林の育成(2)移種の形式(3)菌種の選択(4)菌糸を入手より培養完了迄の保存法(5)原木林の選定と樹令(6)原木の伐倒時期(7)玉切時期(8)培養(9)原木の搬込み方法(10)搬込み中の管理(11)培養場の選定(12)搬起し作業(13)しいたけ採取(14)しいたけの乾燥及時段(15)原



木並に樺木に対する害敵(16)しいたけ発生期間中有害動物に対する防除等が最も大切な要素と考えます。

此のしいたけ栽培事業は多年経過の外部障害と変化極りなき気象条件に即応し、出来る限りの人工を加えて保護し、しいたけ菌の完全なる生存に対する好条件の連続に導き、初めて合理的な経営が成り立つのであります。

先づ此のしいたけ栽培過程の内その根元となる一要素につき述べてみます。

### 研究事項

#### 1. くぬぎ、こなら原木の経済的採捨の決定

##### (1) 研究の必要性

近年全国的にしいたけ栽培熱極になり年々莫大な資材を伐採しつつあり、而も後継萌芽株の育成を考慮に入れず引継ぎ増大されるとせば必ず近き将来くぬぎ、こなら原木の枯死時代の招来せんことを憂慮され、資材の節約と原木林の育成とを考えた適伐期を地方に及び定める必要を生ずるのである。参考迄にくぬぎ、こならの萌芽について自分の調べを示せば

樹種	15年生	18年生	20年生	23年生
くぬぎ	100%	88%	84%	78%
こなら	96	95	85	80

然るに原木の樹令は一般にくぬぎ 10~20年生、こなら 15~40年生とされて居り、しいたけ栽培と萌芽更新とを組合せた最も経済的な適伐期を研究の意味にて調査しました。

##### (2) 原木に対する条件

- (イ) 材積に比し樹皮表面積大なること
- (ロ) 栄養の根元である辺材部材積率大なること
- (ハ) 辺材部の厚さ深さこと
- (ニ) 樹皮の厚さ厚さこと
- (ホ) 産駒使用の場合産駒の長さ樹皮の厚さ適當なること

残された事項として樹種別産駒別生産量の比及び労賃の比、耐久年限の比等である。

##### (3) 調査方法

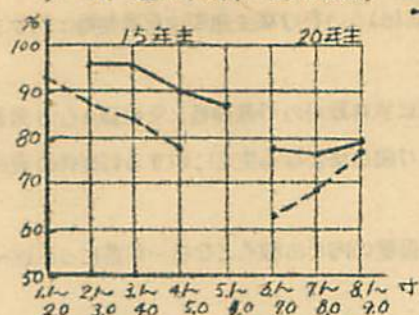
- (イ) しいたけ栽培上適當なる径級と思料され且つ萌芽力最も旺盛と認められる 15年生萌芽林に於て調査し、更に 20年生萌芽林にて径6寸以上の分につき調査
- (ロ) 調査本数 くぬぎ 15年生 107本、20年生 50本  
こなら “ 143本 “ 30本
- (ハ) 材積測定は樹皮を除きたる木幹部による。

##### (4) 調査結果

次表の通り(但し表は更易き於直径階は樹皮を附したるものを使用)

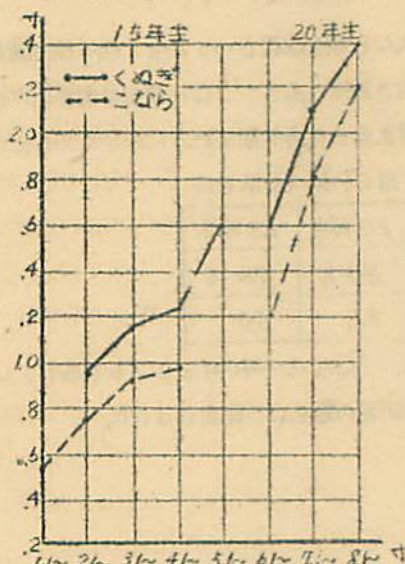


第一表 辺材々積率(直径階別)    —●— くぬぎ  
 —○— こなら



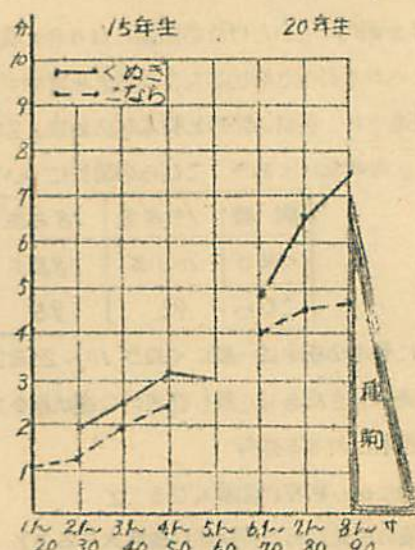
直径階は樹皮を含めた末口径

第二表 辺材の厚さ(直径階別)



直径階は樹皮を含めた末口径

第三表 樹皮の厚さ(直径階別)



直径階は樹皮を含めた末口径

(5) 結論

しいたけ原木の内、くぬぎ、こならの経済的適伐期は地方に応じ生長量多少異なるも、辺材々積率、正の厚さ、樹皮の厚さ、樹皮表面積により判定するに於てくぬぎは15年生、こならは1-2年遅れて17年生程度、径級に於て3-6寸が最も有利と考えられ、此の樹令期は萌芽率最も旺盛にして経済的適伐期と思料される。尚くぬぎに於て20年以上の原木は樹皮厚く種駒の長さ7分には辺材部に達せざるものあり。駒の長さを改良するか或は種駒以外の箇条の接穂を行ない材質部に3分以上浸入させる事が必要であると思ひます。